

2018年6月16日

## 「国際モダンホスピタルショウ 2018」、7月11日～13日

東京ビッグサイトで開催 日本病院会/日本経営協会

45回目となる今年は、テーマを「健康・医療・福祉の未来をひらく～世代と国境を越えた豊かな共生を目指して～」をとし、医療連携を支援するクラウド型システムや、医用画像・映像ソリューション、在宅医療、介護、福祉などの国内外における最先端技術や機器を展示する。

会期中は、日本病院会主催のシンポジウムをはじめ、ホスピタルショウカンファレンスを連日開催。

今回は、「SPECIAL LECTURE」として医療現場にiPhoneやiPad、Apple Watchを導入し、ヘルスケアの変革を推進している米国のオシュナー・ヘルシステムからミラニ博士を招いたセッションも開催する。

その他、公益社団法人日本看護協会特別セミナーや、50社以上の出展者によるプレゼンテーションセミナーを行う。学識経験者や専門家によるIoT、ICT、AIなどを活用した新たな病院のあり方についての講演や、国内での新たな国際医療への展開をテーマとしたセッションなどを予定している。

展示は、「看護ゾーン」「医療機器ゾーン」「介護・福祉・リハビリゾーン」「健診・ヘルスケアゾーン」「施設環境・アメニティゾーン」「医療情報システムゾーン」6つの展示ゾーンと、「現場で役立つアイテムコーナー/ブックコーナー」即売コーナーで構成。また、主催者企画では2つのテーマで企画展示する。「快適な職場環境づくりのために」では、病院で働く方の労働・職場環境の改善に活用することができる工夫やサービスを試食・試飲を含めて紹介。「テクノロジーが映し出す変わりゆく医療の今と未来～メディカルIT最新事情～」では、日本をはじめ様々な国で大きく変わり始めているIT活用の事例を紹介する。

以上